

# コミュニティ・スクールだより

2025.02.14  
Vol.47

名張市教育委員会事務局発行

2月に入り、市内小中学校の学校運営協議会も本年度最後の開催をむかえています。今年度の学校運営協議会の運営や、コミュニティ・スクール（以下、CS）の取組の成果や課題を振り返り、次年度につなげていくことが大切です。

## 第2回小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会開催

今回も山口県地域連携教育アドバイザー・木本育夫さんにお越しいただき、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動」という演題でご講演をいただき、推進協議会委員及び各校参加者で意見交流をしました。以下、講演いただいた内容のポイントを一部、紹介します。



### ① CSと地域学校協働活動の一体的推進を図るために

「一体的推進」とはCSの仕組みと、地域学校協働活動の様々な活動を連携させることです。それにより、それぞれがもつ役割が十分に機能し、相乗効果を発揮して、学校運営の改善と地域づくりに資する活動が進んでいきます。そのためには、**学校目標や地域ビジョンの活動計画を共有し、「どんな学校を、どんな地域を創っていききたいか」をみんなで考える「熟議」の実施や成果をみんなで共有**することが重要です。

最終の学校運営協議会では、「子どもの変容」を委員全員で共有してください。

CSの取組や地域学校協働活動を通して、「子どもたちがこう変わった!」ということを全員で共有し、活動の振り返りによる成果の確認をすることは、今後の活動の拡がりを促し、「やって良かった」という委員それぞれの自己有用感（やりがい）と次への意欲につながります。

### ② 学校・地域連携カリキュラムとは

「社会に開かれた教育課程」の考え方をもとに、学校と地域が連携・協働する教育活動を体系的に示したカリキュラム（全体計画）のことです。小学校と中学校で**9年間の子どもの学びの流れと「つきたい力」を明確にしましょう。特に、小中学校の接続の部分の段差が生じないよう見通しを持って、中学校区で一貫して進めていくことが大切です。**

次号では、木本さんの講演の中から、「地域学校協働活動推進員」について、お伝えします!

### ③ 学校運営協議会の活性化に向けて

名張市も昨年度から継続して、学校運営協議会に児童生徒や教職員の参加が増えています。主体的・対話的な学校運営協議会のさらなる充実に向けて、木本さんに教えていただいた下記のチェック項目を活用し、自校の学校運営協議会を振り返りました。

## 主体的・対話的な学校運営協議会の充実に向けて



### 今年度の学校運営協議会を振り返ってみましょう

- 学校だけが資料を作成し、司会や提案の全てを行っていませんか。
- 委員全員で十分に議論しながら目標や組織を作っていますか。
- 学校は抱えている課題の情報を隠さず、委員と共有できていますか。
- 教育課程の編成や授業について、委員と一緒に協議する場がありますか。
- お互いの立場や考えを尊重し、委員は積極的な提案ができていますか。
- 学校運営協議会や熟議で決まったことを見える化して、日ごろから意識できていますか。
- 子どもたちの意見や考えを学校運営協議会に取り入れ、一緒に考えていますか。
- 委員は学校の取組を、積極的に地域に伝えていきますか。
- 成功体験や喜びを共有することにより、委員の充実度は高まっていますか。
- 委員全員で学校運営協議会のPDCAを行い、次年度への改善が行われていますか。

 次年度の学校運営協議会活性化のための課題は・・・

## 寺子屋こもはら小学生版（行政報告より）

本年度の各学校の学校運営協議会では「子どもの居場所づくり」が話題に上がる学校が多くありました。薦原小学校でも、夏休みの子どもの居場所づくりについて学校運営協議会で熟議し、それを受けて、地域学校協働活動として「寺子屋こもはら小学生版」が始まっています。

この活動を通して、友だちや地域の方とつながり、感謝の気持ちを持つことや、学ぶ喜びや達成感を味わうことで主体的に取り組む意欲を育てるなど、**学校と地域がめざす子ども像をしっかりと共有して進めている取組**となっています。

寺子屋で  
みんないきいき  
“こもはらならではの”

